

基調講演
「RI 戦略計画と青少年奉仕」
南園義一

本日、皆さんには第7回の全国 RYLA 研究会に参加を頂きまして、誠に有難うございます。私は、この度、この全国 RYLA 研究会の委員長を仰せつかりました D2710・パストガバナーの南園義一です。私はこの全国 RYLA 研究会で、海沼美智子さんの御世話で、2012年、2013年と2回ほど基調講演をさせて頂いたことがあります。その時、昨年逝去された今井鎮雄委員長も御健在で、この RYLA 研究会の委員長としてお指導を頂きました。

今井鎮雄前委員長は、私が1997-98年の地区ガバナーの時、丁度、RI 理事でありまして、1996年-97年のロータリー研究会を主宰されました。当時、研究会が開催された神戸のポートピア・ホテルにはドセンテ・ジアイ RI 会長エレクトが来られました。その研究会のテーマが「新世代奉仕」であったことを懐かしく思い出します。爾来、今井鎮雄元 RI 理事とは20年に及ぶ交誼を頂きましたが、只今、心から御冥福を祈る次第です。

また、2004-06年、ロータリー100周年の時に、ここにおられます田中作次元 RI 会長と一緒に RI 理事をさせて頂きました。その後、2007年から2013年まで6年間、RI 戦略計画委員会の委員を務めました。RI の戦略計画は将来への「ロータリーの理念」と「具体的な実践活動」を定めた重要な目標ですが、青少年奉仕に関する活動も共に強調しております。

<戦略計画と青少年奉仕>

皆様は良くお存じと思いますが、RI の戦略計画には二つの要素があります。それはロータリーの理念である「中核的価値観」と「具体的活動の実践項目」の二つですが、その中には戦略計画の基盤となる3つの基本的な方針があります。一つは「基本に立ち返る (Back to Basic)」ということです。決して「昔に戻る」ということでは無く、「ロータリー活動の本質を変えない」ということです。

2番目は「効果的な奉仕活動を推進する (Collaboration)」ことです。ロータリー100年も創始後110年になりますが、組織を機能化し、活動を活発にすることは重要な課題です。協調という言葉がありますが、単独な活動では相乗効果がありません。活動を活発にすると同時に、お互いに協力し合う連携活動も必要です。3番目は最近ロータリーが力を入れている広報活動です。「公共や社会における存在感の高揚 (Publicity)」は複雑な現代社会では重要な実践活動になって参りました。

これ等の基本的な3基本方針を前提にしながら、ロータリアンの与論である3年毎の調査の結果も尊重して RI 戦略計画が出来上がりました。ロータリーの戦略計画は2つの大きな要素に分かれおります。一つは親睦、奉仕、多様性、高潔性、リーダーシップの5項目からな

る「中核的価値観」です。これは、全てのロータリアンにとって中核となる重要な価値観ですが、特に RYLA は「高潔性」と「リーダーシップ」と強い関連がであろうと思います。

勿論、「親睦」、「奉仕」、「多様性」も中核的価値観の重要項目ですが、RYLA では若き青少年にこれらの「ロータリーの理念」を理解して貰うと同時に、将来への「より良き社会」を目指すリーダーの育成が肝要といわれています。「青少年への理解」と「リーダーの育成」は特に RYLA の主要課題であろうと思います。

実践目標は具体的に 3 項目あります。最初の「クラブの活性化」は極めて重要で、クラブの柔軟性と刷新性をもって活性化を図ろうというもので、ダイナミックなクラブの発展を期待しています。2 番目は「人道的奉仕の重点化と増加」という実践項目です。この中に「6 つの重点目標と」と同時に「青少年や若きリーダーへの支援」という項目が掲げられています。ロータリーの 6 つの重点項目は、ロータリー財団だけでなく、ロータリー活動全体の重点目標ですが、同時に掲げてある「青少年への活動」は、将来を担う青少年を支援することによって、ロータリーの将来を期待する極めて重要な活動であろうと考えられています。

ロータリーの青少年奉仕活動にはインターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLA 等あることは御承知のことですが、なかでも RYLA は 14-30 歳の若い人々を対象にスキルと人格を養いながら、奉仕、高い道徳的基準、平和と言ったロータリーの価値観と活動目標を学び、地域のリーダーを養成する機会を提供するもので、ロータリー活動の中で未来を担う青少年の生長を願う素晴らしい活動であると思っています。

<広島で行われた世界平和フォーラム>

その様な意味で、田中作次元 RI 会長が提唱された「奉仕を通じて平和を」という世界平和フォーラムを思い出します。フォーラムの開催地は世界中でベルリンとホノルルと広島でした。テーマを申し上げますとベルリンは「国境なき平和」、ホノルルは「平和にいたる緑の道」、広島は「平和はあなたから始まる」でした。

一昨年(2017)の 5 月に、広島で行われた「世界平和フォーラム」は、D2710 の川妻二郎 PDG が実行委員長をされ、私はアドバイザーとして運営の手伝いを致しました。フォーラムにはかなり多くのロータリアンや青少年の人たちが全世界から参加されまして、2500 名くらい集まりました。私どもは、このフォーラムを世界中のロータリアンが青少年を中心として「平和に関する」素晴らしい話し合いが出来た「世界 RYLA」であったと思っています。

広島フォーラムのポスターの背景は皆様ご存知の原爆ドームであります。国際平和都市広島での開催は当然のことと思います。ポスターの下の部分に英文が書いてありますが、こ

れには二つの強調点があります。「これから平和がいかに大切か」ということが一つ、そして、2番目に「それを支えるのは青少年だ」ということです。

その時のフォーラムの会場風景です。広島平和公園内に国際会議場があるのをご存知かと思いますが、その国際会議場でフォーラムが開催されました。非常にたくさんの人達が全世界や国内から来られました。先ほど申しましたように、2500名近い参加者でした。若い青少年の人たちもたくさん見えました。外国の方はだいたい500名程度参加をされました。

その広島フォーラムのテーマは「平和はあなたから始まる」ですが、具体的には、プレ・フォーラムとして社会経済的な要因が平和にどう影響を与えるのか。あるいは、文化的な側面がどういうふうに平和に関わり合いがあるのか。また個人としての立場で平和をどう考えるかという問題等、熱心に討論いたしました。

これがその討論会場のスライドです。若い人が多く熱心な討論が続きましたが、特にインターアクト、ローターアクト等の世界中の青少年のみなさんが順番を待ってまで発言をしました。その思いが、これからの日本や世界の将来にとって、とても重要です。私たちロータリアンにとりましては、世界の人々の幸せを願うのがロータリーの目的ですので、若い青少年の意見は充分に尊重すべきであると思いました。

そのときの結論は「平和は人の心の中にある」ということでした。最初から、「Peace begin with me」というテーマをもって皆さんに話をしてもらいましたが、結論としては「with me」ではなくて「with us」、又は「with you」です。「私たちが平和を築くのです」という結論が若き青少年たちの信念となりました。

今回、参加された多くのロータリアンや青少年たちは多くの「平和に関する思い」を世界各地に持ち帰り、実践されておられると思います。RYLAの目的は私たち「ロータリーの理念」を地域社会や国際社会で実践することです。素晴らしい世界的なRYLAであったと思います。

私たちはこの様な「成果があるRYLA」が世界各地で開催され、しかも今後も継続されたらよいね！と話し合いました。今年6月に開催されるブラジルのサンパーロデ国際大会では「平和フォーラム」が開催される予定と聞いていますが、更に「平和の論議」が深くなり、世界中の人々の与論を高め、平和への活動を広げることを祈念しています。

<青少年活動の基本方針>

そこで、ロータリーの青少年活動は何か！その理念と活動方針を考えて見ることにします。青少年活動の理念や活動方針は、従来、ロータリーの手続要覧に記載されていましたが。2013年の手続要覧には「プログラムと活動」の章に簡単に記載されていますので、それらの原典である「ロータリー章典」にもとづいて青少年活動の基本方針を「特にRYLAを中心」話してみたいと思います。

ロータリーは、青少年奉仕活動の重要性に鑑みて、2012年、10月、RI理事会で青少年活動に関する基本方針を見直しました。内容を見ますと、まず、すべてのロータリアンに、ロータリーの本質であり、特徴である高い倫理的基準を保つことを勧めています。また、若い人たちの願望や関心を十分に理解して各地域や社会で実践することを奨励しています。特に、ロータリーが実践する人道的奉仕、または教育的プログラムに若い人たちの参加を奨励しています。

<青少年奉仕活動の理念とビジョン>

同時に「青少年奉仕活動の理念とビジョン」も明確に決めました。その中で、青少年活動は、家族の未来、地域の未来そしてロータリーの未来を左右する重要な奉仕活動であることを強調し、各ロータリアンは青少年奉仕活動を通じて「ロータリーの理念や伝統」を分かち合うことが重要であるとうたっています。具体的には家族の中での友愛、地域社会や国際社会での奉仕、職業奉仕や4つのテストの重要性を強調しています。そして本当に私たちの社会を幸せにする、効果ある「リーダーシップの確立」を願っています。

<RYLAの目的あるいは目標>

元来、2001年のRI理事会で決議されたRYLAの目標（目的）は以下の様です。先ず、青少年を尊重し、関心を共有すること。青少年指導者として素質のある人々に実地訓練を体験させ、責任ある有能な青少年指導者となるよう激励、援助することです。青少年の基本的なニーズを支援するプロジェクトは、健康維持、人間の価値尊重、教育、自己開発の原則を基盤にしていますが、RYLAはこれ等青少年活動の中核をなすものと言へるでしょう。

<RYLA活動の中心的カリキュラム>

ロータリー章典によれば、RYLA活動の主要なカリキュラムは、より良き指導力の養成であり、具体的にはロータリーの理念や実践活動の内容を良く知り、理解しながら、伝達力

の重要性や問題解決や紛争処理能力を涵養すると共に、地域社会の市民であり世界社会で活躍できる良き指導者を育てることであります。そして指導力の倫理性、伝達力と自信と自尊心を養うことによって、如何にしてより良き地域のリーダーとなるべき市民を育てるかということです。

現在、各地の地区やクラブでRYLAが開催され、数十年に及ぶ貴重な体験が積み重ねられています。皆さま素晴らしい経験例を御持ちです。私も地区ガバナーの時にRYLAを開催した経験があります。山口県の秋穂二島にあるセミナーパークで2日間に亘ってD2710のRYLA実施しましたが、第1日目はワールドゲームでお互いの心の交流を図り、二日目は日本文化、特に日本の書道について特別講師を招き、また、自分達で書を書いて感想を話し合いました。

その時、地区内のロータリアンや青少年の人たちが200名近く参加されましたが最初にワールドゲームによってお互いの心をほぐし、実際に書道を体験し、日本文化の真髓を話し合うことによって、人間的に交流と知識を深めました。最後には参加者はみんなが感激を味わい、別れを惜しみました。以来、当地区では事情の許す限り、殆ど毎年RYLAを実施しています。

<RYLAに関するロータリアンの活動>

RYLA活動の中で、ロータリアンが如何に関与するかという課題は重要な問題です。先ず、ロータリアン同士の情報交換が大事です。そしてクラブだけの活動でなく、地区同士、国際的レベルでの交流活動が大切で、お互いに招待し合い、多くのRYLA参加者の協力を得ることが強調されています。そして、地区やクラブのRYLA参加者が更にその輪をひろげ、引き続きRYLA活動の企画や指導に参加する様、ロータリー章典にも記載されています。

実は、私たちD2710は一昨年の広島での平和フォーラムでの後、安芸の宮島で地区のRYLAを開催されました。地区外のロータリアンや青少年も多く参加して「今日から築く、私たちの平和」と言うテーマでしたが。観光客の人たちの意見もまじえて極めて有益なRYLAでした。願わくば、更に数年、継続して平和を語り合うことがRYLAとして有益ではないかと思われまます。

<標準ロータリークラブ定款 第5条>

最後に、ロータリーの青少年活動の定義について話しておきます。先ず標準クラブ定款には、第5条に青少年奉仕活動が銘記してあります。それによると、「奉仕の第5部門である青少年奉仕は、指導力養成活動、国際奉仕プロジェクト及び社会奉仕プロジェクトへの参

加、世界平和と異文化理解を深める交換プログラムを通じて、青少年及び若者によって好ましい変化がもたらされることを認識するものである。」と記載されています。

<青少年奉仕が「ロータリーの目的」の第5項に記載>

また、2013年の規定審議会の決議に従って、2014年10月のRI理事会で「ロータリーの目的」の五番目の奉仕活動として承認し、青少年奉仕活動を加えて「ロータリーの奉仕活動は五大奉仕部門」になる予定です。その内容は

第5項：「奉仕、指導力、国際交流、そして、リーダーシップを開発する機会を通じて青少年のリーダーとしての能力を高めること」となっています。

これは公式のものでありませんので、公式の文章が出ましたら、そちらを本文にして頂きたいと思います。

<未来を築く青少年奉仕>

終わりに、未来の世界を築くのは青少年の皆さんです。青少年は将来のロータリーに取りましても未来の夢を語れる大きな存在です。私たちロータリアンは青少年の皆様と共に未来を語り、協力し合ひましょう。

私たちには青少年の皆さんと心を開いて、同じ目線で語り、悩みを打ち明け、未来を話し合う必要があります。現代の変化の激しい激流の中で思いを共有することが肝要です。

RYLAの目的は「ロータリーの理念」である「思いやりの心」を持ち、また人や社会の幸せを願って共に活動することであろうと思います。

<青少年は未来を築く若者である。ロータリーは未来を担う青少年に将来への希望と力を与える。また、青少年の才能を伸ばし、熱意を呼び起こし、青少年の心の中に、個人として、また市民としてしての責任感と指導力を持つ人を育てることが目標である。 > おわります。